

※の金額は研究科委員会決定後、事務局で記入

(書式 2)

学会参加報告書

提出日 2017 年 7 月 19 日

学籍番号	15N0001	学系	教育・コーチング
氏名	植松雄太		
学会等名（正式名称）	European College of Sport Science, ECSS MetropolisRuhr 2017		
開催日程	2017 年 7 月 5 日 ~ 2017 年 7 月 8 日		
開催場所（国・都市名）	ドイツ・エッセン		
発表演題名	Research on the difference between the player retired at the youth age in top levels, and the player who continued even the senior		
参加報告 ・項目別に具体的に記載する.	<p><学会の全体の印象> ヨーロッパでの国際学会ということで学会の規模や研究ジャンルの広さそしてブースなどありとあらゆる部分において、日本を圧倒するものがあつた。参加費は少し高めではあるが、あれだけの会場設定やネット環境さらにゲーティングも含めて参加者のモチベーションを大いに引き立たせる ECSS 学会は参加者の真剣さと研究発表を楽しんでいるヨーロッパ人の姿がそこにはあつた。第 2・3 外国語として英語を使う人が多い中、あれだけ流暢に話す人間が多いことにただただ感心するところである。</p> <p><自分の研究と関連した発表とその内容> オーラルプレゼンテーションにおける類似した発表はなく、ポスタープレゼンテーションにて、イランの方による「アメリカとイランにおけるコーチとアスリートの関係性の比較研究」発表が予定されていたため、期待して会場に足を運んだ。しかし取り下げをしていたため発表と質問ができなかったことはとても残念なことだった。</p> <p><自身の発表への質問・コメント> 被験者数の質問があつた。日本代表クラスによる研究で被験者が少ないことやより掘り下げることの重要性を返答した。エビデンスまで結びつけるために今回のような質問が論文においても査読者から来ることは想定できる。よって質的研究の論文作成では、メソッドにおいて質的研究を選んだ経緯や方法などをより地固めしていくことが重要であることが判つた。今回の学会成果はとても有意義であつた。</p>		

※ 補助金を受けた学生はこの学会参加報告書を提出すること。

提出期限は学会終了後 2 週間以内とする。

本報告書は学会参加報告書として日本体育大学総合スポーツ科学研究センターホームページ内に掲載されます。